

海外安全対策情報（平成29年度第3四半期：コロンビア）

1 社会・治安情勢

（1）コロンビア政府による2017年中の犯罪統計の発表

国防省の犯罪統計が発表された。コロンビア国内における2017年の主要な犯罪統計は以下のとおり（今後、数字は変動する可能性があります。）。

- 殺人 12,160件（対前年比 -242件）
- 強窃盗（対人被害） 176,257件（同 +29,615件）
- 強窃盗（邸宅、商業施設被害） 46,218件（同 -958件）
- 強窃盗（乗物盗） 31,325件（同 -8,263件）
- 性犯罪 28,180件（同 +152件）
- テロ 124件（同 -100件）
- 誘拐 193件（同 -24件）
- 恐喝 5,341件（同 +438件）

殺人、テロ、誘拐件数は減少したが、強窃盗（対人被害）は大幅に増加、特に8月以降大幅な増加傾向を示している。強窃盗（対人被害）の増加は8年連続。

（2）政府とELN（国民解放軍）の和平交渉をめぐる動向

10月23日、エクアドルで和平に対する公約、合意内容の履行、指導者の殺害及び違法作物を主要テーマとして、コロンビア政府とELN間で和平交渉の第4回交渉が開始された。一方で翌24日、太平洋岸のチョコ県アルト・バウド市の先住民の首長がELNに身柄を拘束され、殺害された。

10月1日から始まった相互一時停戦合意の結果、12月31日まで、治安機関とELNによる戦闘行為が完全に中止され緊張が和らいだ反面、上記先住民の首長の殺害などの一時停戦合意違反が発生した。また、チョコ県、ナリーニョ県の特に太平洋岸を中心として、他の武装犯罪組織間の争いが発生、治安の悪化を指摘するレポートがある（なお、平成30年1月9日までであった停戦期限を過ぎて以降、アラウカ県等において石油パイプライン等に対するELNによるとみられる攻撃が多発している。）。

（3）武装犯罪組織「クラン・デル・ゴルフオ」による一方的停戦の宣言

12月13日、薬物の売買等を行う武装犯罪組織「クラン・デル・ゴルフオ」は、政府に対し同日から武力攻撃を一方的に停止する旨宣言した。コミュニケでは、ELNに互いに対峙している地域での停戦を呼びかけ、また、FARC（コロンビア革命軍）離反兵や他の武装犯罪組織に対しても、互いの攻撃及び市民への攻撃の停止を呼びかけた。今回の停戦の呼びかけは、治安機関及びELNからの同組織に対する圧力を減少させつつ、この期間を利用して、幹部を安全な場所

に移動し、武器や麻薬取引に注力する意図があるとの分析がなされている。近年、同組織が活動する地域は、アンティオキア県北部、コルドバ県南部、チョコ県及びナリーニョ県太平洋岸等が中心だが、昨今は同地域からメタ県南部やグアビアレ県へ進出しているとの情報もある。

(4) ベネズエラ国境ノルテ・デ・サントアンデール県ククタ市の状況

11月、ノルテ・デ・サントアンデール県ククタ都市圏警察は、ククタ市の都市部における外国人逮捕者数が80%以上上昇、その大部分は対人強盗及び銃器の違法所持と発表。同警察幹部は、ベネズエラの状況悪化に伴う移民の増加と関係があると述べた。

(5) 先住民による道路封鎖

11月中、カウカ県のパンアメリカン高速道路が8日間に渡り先住民により封鎖され、治安機関との衝突に発展したほか、ウイラ県とトリマ県でもストライキが発生した。また、チョコ県キブド市とアンティオキア県メデジン市間、バジェ・デル・カウカ県カリ市とブエナVENTURA市間、ナリーニョ県パスト市とトゥマコ市間で暴力事件や道路封鎖が確認された。メタ県のビジャビセンシオ市とブエルト・ガイタン市を結ぶ道路も封鎖された。

2 一般犯罪の傾向

(1) 犯罪別発生件数

第3四半期（10月～12月）のコロンビア全国における罪種別犯罪発生件数は以下のとおり（出典：コロンビア国防省統計）。

・殺人	3, 267件
・強盗（対人被害）	4, 7574件
・強盗（邸宅、商業施設被害）	10, 461件
・強盗（乗物被害）	6, 911件
・性犯罪	4, 867件

(2) 邦人の犯罪被害事案

- 10月3日、短期渡航者がバジェ・デル・カウカ県サンティアゴ・デ・カリ市からボゴタ市行きの夜行バスに乗車中、バスが警察官3人による検問を受けた。被害者は警察官に降車させられ、検問所に連れ込まれた上、逮捕すると脅され、現金を恐喝された。
- 10月13日昼間、短期渡航者が、ボゴタ市内が一望できるモンセラッテの丘登山道を徒歩で登っていると、見知らぬ男に背後から肩を掴まれ、首筋にナイフを突きつけられ「マネー、マネー」と言って脅された後、男5～6人に取り囲まれ、リュックサック等の貴重品を強奪された。なお、被害時登山道には観光客や登山客はほとんどなく閑散としていた。

- 10月31日夕刻、長期在留者がボゴタ市旧市街のラス・アグアス駅周辺において、徒歩でホテルを探していたところ、突然、背後から若い男にナイフを首筋に突きつけられ脅迫された。被害者は、ズボンのポケットに入れていた現金を渡したが、更に前方から近寄ってきた別の男に背負っていたバックパックをはがしとられる強盗被害に遭った。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 発生件数（10月～12月）（出典：コロンビア国防省統計）

15件

(2) 発生事案

報道等によると、国内において、以下のテロ・爆弾事案が発生した。

- 10月2日、カウカ県北部において、FARC離反兵とみられる者の攻撃により、警察官3人が死亡した。
- 10月10日、セサル県南部において、交通事故の通報を受け警察官が臨場した現場に仕掛けられていた爆弾が爆発し、警察官1名が負傷した。
- 10月22日、カウカ県とバジェ・デル・カウカ県の県境付近で、司法活動のため移動中であった検察庁と軍の一团に対する攻撃が発生、兵士1名が死亡した。FARC離反兵によるものとみられている。
- 10月24日、ノルテ・デ・サントアンデール県テオラマ市において、離陸しようとした国営石油会社所属のヘリコプターが、爆弾による攻撃を受けたが、負傷者はなかった。
- 11月30日、カウカ県カロット市において、水力発電施設に仕掛けられた爆発物が爆発したが、負傷者はなかった。
- 11月30日、ノルテ・デ・サントアンデール県北部において、同県政府職員と外務省職員が乗車するヘリコプターが離陸しようとしたところ、攻撃を受けたが、負傷者はなかった。
- 12月16日、グアビアレ県サン・ホセ・デ・グアビアレ市において商工会議所主催の行事を警戒中の同県警察幹部が爆弾により襲撃され負傷したほか、市民2名も巻き添えになり負傷した。
- 12月18日、メタ県ラ・マカレナ市でエネルギープラントを警戒中の警察官2名が何者かの銃撃を受け死亡した。
- 12月27日、ノルテ・デ・サントアンデール県北部において、通信会社が管理する施設に仕掛けられた爆弾が爆発したが、負傷者はなかった。

4 誘拐・恐喝事件発生状況

(1) 発生件数（10月～12月）（出典：コロンビア国防省統計）

ア 誘拐	39件
イ 恐喝	664件

(2) 発生事案

主な誘拐事案は以下のとおり。武装集団による誘拐事件は、ノルテ・デ・サントアンデール県カタトゥンボ地区やチョコ県で多く発生している。

- アンティオキア県グアルネ市において、E L Nとの政府側交渉団長フアン・カミーロ・レストレポの姉とブラジル人女性が誘拐されていたが、10月18日、警察により救出された。警察は、その手口や特徴から見て、左翼ゲリラによるものではなく、一般犯罪であると断定した。
- 12月11日、セサル県南部のノルテ・デ・サントアンデール県との県境付近において、同地で有名な農業経営者と息子が武装集団に誘拐された。

5 日本企業の安全に関する諸問題

政府の継続した治安対策により、ボゴタ市を始めとする都市部では、テロ、殺人及び誘拐の発生は減少し、都市部での治安状況は過去最悪とされる2000年前後に比べ著しく改善された。しかし、2017年もボゴタ市内で爆弾テロが複数件発生、特に6月17日発生の「セントロ・アンディノ」における爆弾事件は一般市民が巻き込まれており、警戒を怠ることはできない状況。

また、未だ山間部やジャングル地帯を中心に治安機関及び石油・電力施設を狙ったテロが頻発している。これら地域は、国軍・警察の影響力が低いため、人的・物的被害が絶えない。また、ベネズエラやパナマとの国境付近、太平洋岸はゲリラ組織や犯罪組織が活発に活動し、これら勢力争いに伴う銃撃戦も発生している。

F A R Cは武装解除し、新党が設立され合法政党となったが、一部和平方針に従わない離反兵の活動も認められているほか、元兵士の社会復帰の成否如何によっては治安へ悪影響も懸念される。

E L Nは政府と正式な和平交渉を行っているものの、今後の和平交渉の進展次第では、テロ・誘拐を敢行する可能性は否定できない。

従って、特に地方への訪問については、その可否を決定する上でも、外務省、大使館、現地治安当局より最新の治安情報を入手するよう努めていただきたい。